

## 事例紹介

### 奈良県教育委員会

### × 山添村教育委員会

## 個にまかせ、意欲を引き出す

### ～eラーニングで「自分でやりたい！」が続く学習を～

奈良県では、小・中・高・特別支援学校それぞれで、子どもたちの興味・関心を高める「eラーニング」の活用方法を研究しています。子どもたちが「自分でやりたい！」と思うきっかけとして選ばれたのが、小・中学校向けの「eライブラリ」と、高校向けの「ラインズドリル」でした。

それぞれの校種の先生たちのねらいや思いが詰まった活用の様子を伺いました。



### 山添村立やまぞえ小学校 一回二回では終わらず継続することが大事

「習うより慣れよ」の言葉通り、やまぞえ小学校では1年生のうちからタブレットに触れさせ、さらにeライブラリを使って「何を勉強するか、自分で選ぶうれしさ」も高めています。



▲正解すると〇(まる)が出て楽しい！

「タブレット専用室を設けるなど工夫を重ね、効率よくeライブラリを活用しています」と語る松本哲校長先生。基礎学力の向上のためにとeライブラリを使い始めましたが、タブレット活用も学力も、大事なものは「小刻みでもたくさん学習時間をとり、それを続けること」。今では、児童たちは**学習の履歴を自分で確かめ、苦手な単元でも積極的に学習できる**ようになっています。

「苦手だから頑張ろう」という自主性は向上心にもつながり、児童たちは「次はもっと良い点を取るぞ！」と、eライブラリの時間を楽しみにしています。

### 活用場面⇒ 業間休みの10～15分、単元のまとめや、テスト前の確かめに

### 山添村立山添中学校 複数の学年・教科の指導時に効果を発揮

山添中学校では、特別支援学級とテスト前の相談教室でeライブラリを利用。個々の興味や関心、得意や苦手は異なりますが、「学びたい」という意欲にeライブラリが応えます。



▲100点が取れると自信がつく

生徒たちは、学年も進度も理解度もばらばらです。川本和世教頭先生は「教材を自由に選択できて、問題ごとに解答解説を確認できるのが良いですね」と語ります。正解なら自信になり、不正解でも**解説を見てしっかり考えることができる**ので、自分の力で進めていくことができます。この「**どんどん進める**」という**感覚が、生徒の意欲向上につながる**のです。

さらに川本教頭先生は、自宅で机につく時間を増やすきっかけになれば、と「家庭学習サービス」の普及も計画しています。

### 活用場面⇒ 特別支援学級の授業内の15分や、定期テスト前の放課後相談教室で40分程度

「情報の科学」を選択している生徒たちが既習事項の学び直しの活動の中で、情報と情報技術を問題の発見と解決に効果的に活用するためにラインズドリルで主体的に学んでいます。



「今日学ぶ教科」を必ず生徒自身に決めさせるという担当の村久木豊先生。「自分で決めるからこそ主体的になれます。また、全問正解したいので、それぞれが解説教材を読み込んだり、書き写したりする工夫をしています」と話してくれました。

▼自然と教え合いがうまれる



全問正解することで「学習ポイント」がたまるラインズドリルだから、生徒の学習意欲も高まります。金子博和教頭先生は「正解の積み重ねによるポイントの蓄積が、自分の得意分野を自覚するきっかけになればよいと考えています」と語ります。生徒が、自分の将来を見据えることにつながるとも期待しているそうです。

**活用場面⇒ 授業の冒頭10分程度、自分で教科を選び既習事項を振り返る**

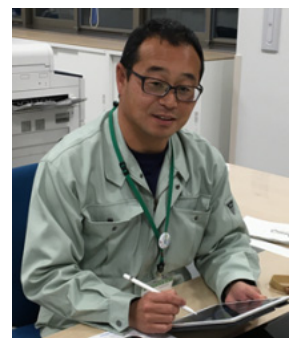
山添村教育委員会

事務局長補佐 椋本 泰明様のお話

デジタルネイティブの「楽しい・おもしろい」を引き出すこと

児童生徒用のタブレット端末を学校に届けたのは平成28年度の2学期でした。子どもたちの興味津々な表情は非常に印象的で今でも忘れられません。その「わくわく」感を持ち続けさせることがとても大切な事であると思っています。

山添村の小中学校では、タブレット導入以来、生まれた時から身近にネット環境がある中で育った子どもたちにeライブラリを活用して継続的な取組ができており、その成果は家庭での学習にも広がりを見せています。『学ぶならイヤイヤではなく楽しんで学んでほしい』それが学力向上に繋がると信じています。



山添村教育委員会  
事務局  
事務局長補佐  
椋本 泰明様

奈良県教育委員会

ICT教育係長 小崎 誠二様のお話

ICTを教育に生かす最高のツール

「まなぶ」ということは、他人から教えられたり強制されたりするものではなく、自らがやりたいという気持ちになることがスタートラインです。自分の課題を自分で発見し、自分の都合のいいときに自分のペースで繰り返してトライでき、さらに先生とも状況を共有できるeラーニングを活用したドリル学習は、まさにICTを教育に生かす最高のツールの一つで、それを形にしたのが「ラインズドリル」です。「チームやまぞえ」の取組が、県内の高校にもつながり、「チームなら」の取組に発展していくことを楽しみにしています。



奈良県教育委員会  
ICT教育係長  
小崎 誠二様